

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第6部門第2区分
 【発行日】平成18年2月9日(2006.2.9)

【公開番号】特開2003-263080(P2003-263080A)
 【公開日】平成15年9月19日(2003.9.19)
 【出願番号】特願2002-369559(P2002-369559)
 【国際特許分類】

G 0 3 G 21/00 (2006.01)
B 4 1 J 29/38 (2006.01)
G 0 6 Q 50/00 (2006.01)
H 0 4 N 1/00 (2006.01)
G 0 3 G 21/02 (2006.01)

【F I】

G 0 3 G	21/00	5 1 2
B 4 1 J	29/38	Z
G 0 6 F	17/60	1 3 8
G 0 6 F	17/60	1 5 0
H 0 4 N	1/00	1 0 6 C
G 0 3 G	21/00	3 9 4

【手続補正書】

【提出日】平成17年12月20日(2005.12.20)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 システム内の交換可能な要素の寿命終了決定を判断するための方法において、

システムのサイクルを公称カウントとして受け取る段階と、

少なくとも1つの重み付け係数を前記公称カウントへ適用して少なくとも1つの重み付きカウントを作り出す段階と、

1つ又はそれ以上の重み付きカウントを補足診断カウンタへ集計する段階とから成ることを特徴とする方法。

【請求項2】 文書処理システム内のサービス頻度の高い品目の寿命終了決定を判断するための方法において、

文書処理システムのサイクルを公称カウントとして受け取る段階と、

少なくとも1つの重み付け係数を前記公称カウントへ適用して少なくとも1つの重み付きカウントを作り出す段階と、

前記1つ又はそれ以上の重み付きカウントを補足診断カウンタへ集計する段階とから成ることを特徴とする方法。

【請求項3】 文書処理システム内のサービス頻度の高い品目の寿命終了決定を判断するための方法において、

前記文書処理システムの各サイクル毎に、公称カウンタを公称カウント分だけ増加させる段階と、

少なくとも1つの重み付け係数を前記公称カウントに適用して重み付きカウントを作り出す段階と、

前記公称カウント及び前記重み付きカウントを、1つ又はそれ以上の補足診断カウンタ

へ集計する段階とから成ることを特徴とする方法。